

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105677
法人名	有限会社 司
事業所名	グループホーム 司
所在地	愛媛県松山市浅海原甲405番地
自己評価作成日	平成22年9月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月30日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームは海に面して建っており、窓からは広大な瀬戸内海やその島々を眺めることができます。利用者はその雄大な景色を眺めながら、ゆったりとした時間のなかで日々の暮らしを過ごされています。職員は利用者から自分らしく、いつまでも尊敬される人生の先輩としての暮らしができるよう、できることは自分で当たり前にするし、自身の気持ちに反して出来なくなったり、難しくなった方には皆（職員、利用者）が助け合って暮らしていけるよう、一人一人の生活力を取り戻し、自分らしく暮らす場所としてのホームを作っていくために一丸となって取り組んでいます。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2階の窓からは、その日の天候や行き交う船の様子や飛び跳ねる魚が見られたりもする。そのような景色が日々話題になるようだ。1階の窓を開けると、畑の様子が眺められ、調査訪問時には、窓を開けて利用者同士で畑の野菜や花を指差しながらお話をされていた。外では、ニワトリを飼っておられ、利用者が餌やりをされることもある。居間の壁には、事業所の敬老会時、100歳が近いお二人の利用者に事業所から感謝状を贈った際の写真が飾られていた。  
朝、遅くまで寝ていたい方には、ご本人が起きて来た時間に合わせて朝食の準備をされたり、夜遅くまで起きている方は、その習慣を大切にして、時には夜食にカップラーメンを食べることもあり、管理者は、利用者個々のこれまでの「生活スタイル」等を踏まえながら支援しておられる。又、利用者が個々の居室で「好きなことをする空間や時間を大切にしたい」とも話しておられた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25) 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. <b>利用者の1/3くらいの</b> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19) 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. <b>家族の1/3くらいと</b> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38) 1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20) 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. <b>ほとんどない</b>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38) 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4) 1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12) 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. <b>職員の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. <b>家族等の1/3くらいが</b> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28) 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 法人理念を具体的に目標として掲げ、また勉強会のテーマとして学習する機会をもち、職員間で共有できるよう取り組みを行っているが、まだ完全には実践につなげていないため、職員個別の研修やOJTを活用し、さらに深めていけるようにしたい。	
			(外部評価) 「満足のいく生活をする為に個人の自由と尊厳を守り優しく暖かい心をもって接します」と、事業所では法人理念を掲げて、利用者個々のこれまでの習慣等を大切に、利用者の自由な暮らしを支えていけるよう努めておられる。事業所では、理念の実践に向けて目標の一つに「笑顔」を挙げておられ「笑顔があるか」職員が日々振り返ることができるよう、職員トイレ等に掲示されていた。「地域とのコミュニケーションにも笑顔が大事」と管理者は話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域のお祭りや地区の小学校の運動会に参加するなど、地域との接点が増えるよう情報を集め、参加するようにしている。また、今年度から近隣の保育所とも交流を行えるようにしている。しかし、まだ地域の一員としての交流や地域からの認識も低いと思われるため、今後更に交流を深めていけるようなホームの活動を行っていきたい。	
			(外部評価) 地域の保育所の「プール開き」に招待されて、4名の利用者で出かけられた。園児の水遊びの様子を見たり、一緒に楽しむ利用者もあった。地域の公民館主催の夏祭りに出かけた際には、バザーのソフトクリームを食べたり、展示物を見て回られた。事業所の「茶話会」に、地域の方にも参加していただきたいと、案内を利用者とともに歩いて20軒ほどのお宅に配布された。運営推進会議時に出席いただいている民生委員の方に地域との橋渡しをお願いされている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において、認知症に関わる勉強会を毎回行うようにし、地域の民生委員さんなどに伝えるようにしている。今後、近隣の方々にもそのような機会を持てるように関わっていきたい。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では地区の民生委員の方や市職員の方々だけでなく、地域の福祉事業所の方や消防職員も参加され、幅広い意見がいただけるようにしている。さらに会に出された意見をサービス向上に活かせるよう職員会議やリダー会議で話し合うようにしている。	
			(外部評価) 会議では、行事の様子や入退居された利用者について、又、職員の勉強会の内容について報告されたり、外部評価の結果や避難訓練の取組み等、議題を決めて意見交換をされている。ご家族の希望等をうかがい、ホーム便りの掲載内容を見直された際には、会議時にも見ていただき意見を聞いておられ、民生委員の方からは「地域行事に参加している様子の記載があるといいのではないか」とご意見をいただき、採り入れておられた。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 松山市介護保険課に運営推進会議の案内を出し、毎回出席して頂いている。また他にも毎月の地区連絡会議にも参加し交流をもつことで、日常的な相談を電話等でもできるように関係性の構築に努めている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターが取り組む「行方不明になる可能性のある高齢者の支援」搜索時のネットワーク作りに協力されている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束になる行為について学ぶ機会を持ち、施錠を含めて取り組みを行っている。しかし「ちょっと待って」というような言葉での行動抑制などは時々見られる為、お年寄りが本当に自由に暮らしていけるホームを目指し、勉強会や日常の中で話し合いを設けるようにしている。	
			(外部評価) 調査訪問時、玄関は開放されており、網戸になっていたが、事業所に入る門扉が閉まっていた。利用者もレバーを使って開け閉めすることができるようだ。 事業所の前の道は車の通りもあり、安全面等にも十分な配慮は必要と感じるが、利用者の立場から見た門扉のあり方や又、ご家族、地域の方から見たホームの印象について、この機会に職員で話し合ってみてはどうだろうか。又、管理者は「言葉での拘束についても、十分に配慮したケアを行っていきたい」と話されていた。「職員の言葉」について点検されたり、この機会を拘束について勉強する機会と捉えて「利用者の自由な暮らしの支援」に向けて、さらなる取組みをすすめていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所にて虐待について勉強会を行い、防止に取り組んでいるが、利用者の想いや希望、当たり前の上での我慢や不満が無い生活ができるよう、関わり方や支援、言葉遣いについて、再度考える機会が持てるよう勉強会を行う予定である。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や一部の職員は制度に付いて理解しているが、全員ではない。今後勉強会などを通じて全職員が理解し、各職員が担当の利用者に制度の必要性を感じたときに、関係者と協議できるように取り組みたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は見学に来て頂いたり、訪問する等して管理者が利用者、家族と十分に協議し、不安や疑問点を解消できるよう話し合いを行っている。また、家族会や介護計画作成会議の時などにも話ができるよう努めている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者は介護計画作成時に、家族は家族会や介護計画作成会議時、面会時等に話す機会を設け、また玄関に意見箱を設置し、それらを運営に反映させている。また、御家族様には家族会の前にアンケートを実施し、参加できない家族の意見も話し合えるようにしている。	
			(外部評価) 季節ごとのホーム便りと毎月、ご家族には日々のご本人の様子等を手紙で知らせておられる。「ご家族の知りたいこと」を手紙やホーム便りに載せることができるよう、家族会時に意見を出していただいた。「行事の様子をタイムリーに知りたい」との、ご家族からの希望もあり、毎月の様子の写真を手紙とともにお送りしている。この一年間は「ご家族とお話する機会を増やす」ことに取り組み、意見や要望を聞き取れるよう努力された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は毎月リーダーと話し合いを行い、職員個々とは面接をして、意見や提案を聴き、代表者と会議して運営に反映させるようにしている。また、毎月職員会議では各業務担当者と意見交換を行い、よりよい運営がなされるよう協議を行っている。	
			(外部評価) 今回のサービス評価は、職員個々が自己評価全項目に取り組み、職員全員で話し合い、管理者がまとめられた。又、職員個々が年間目標を立てて日々実践に努めておられる。「利用者に関わる時間を増やす」と目標を掲げている職員もおられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業所で独自のキャリアパス制度を導入し、職員個々が目標を持って働いたり、スキルアップに取り組めるように職場の環境整備に努めている。さらに代表者は毎月の職員会議に参加したり、管理者と運営会議を行うことで、職員のやりたいことが実現できるようにしている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 管理者は職員一人一人の力量に合わせた向上計画書を作成し、全体としての勉強会は毎月行っている。また日常の場面や毎日の報告の時間を活用し、アドバイスやコーチングを行うことで体験を学びとする機会を設けている。今後は事業所外の研修も活用できるよう計画し、学びの機会を増やしていけるよう取り組みたい。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者は積極的に他事業所との交流を進め、管理者も毎月の地区の調整会議に出席して交流を持てるよう取り組んでいる。今後地域の同業者との交流をさらに深め、ネットワークづくりや相互訪問が行えるよう取り組みたい。	
			(外部評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用する前に管理者が訪問して、本人の思いを聞く機会を設けたり、見学に来ていただいて他利用者と過ごす時間を持つようにしている。また入所時には担当職員を決め、本人の思いや要望を聴くようにすることで安心していただけるよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービスを利用する前に管理者が訪問し、見学にも来て頂き、家族とも話し合う機会を多く持てるように取り組んでいる。その際に不安なことや要望を出来るだけ多く聞くことができるよう取り組んでいる。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 管理者は利用相談を受けた際に、御本人の状態や家族の状況、それぞれの思いを聞くように心掛けており、状況に合わせた支援を受けることができるよう相談・助言を行っている。今後、地域包括支援センターとも協力し、在宅で困っている人の支えになれるよう地域の窓口としての相談が受けられるよう取り組みたい。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者の出来ることや得意なことに付いて把握し、一人一人に役割分担を設けて一緒に行えるように取り組んでいるが、利用者はお世話になっているという認識を持たれている方が多いため、職員が主体にならないように働きかけていく取り組みを勉強会やユニット会で話し合っていきたい。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は面会時に近況の報告をしたり、毎月の行事、生活、受診の様子を手紙でお送りするなどして、本人の様子を知って頂けるよう取り組んでいる。さらに介護計画作成会議の際に一緒に本人を支援する方法を考えていただいている。今後も継続して本人の想いを支える仲間としての関係作りを家族と築いていけるよう、話し合う機会を多く持てるようにしていきたい。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の同僚の方や、同級生、近所の方などの訪問が時々あり、その方々には再度の訪問をお願いし、関係の継続が図れるよう取り組んでいるが、本人が大切にしている場所や人へ会いに行くような試みはまだ出来ていない。日常会話から大切にしている場所や人を聞き、個人記録に記入することで、情報の共有を図りながら実現できるよう取り組みたい。 (外部評価) 入居前、病院に長期間入院されていた利用者の方が「先生に会いに行きたい」と希望されて、月に1度の受診に職員が同行されている。ご本人にとっては、長年お世話になった医師や看護師、顔なじみの方達に会うことで、安心されたり楽しみにもなっているようだ。毎月、自宅で2泊して、ご家族と過ごされる方や、年2回、離島にあるご自宅でご家族と過ごされる方もある。以前から利用している理髪店に職員と一緒にいられる方もあるが、入居前は事業所周辺と違った生活圏であった方が多く、管理者は、ホームの近くの美容院や喫茶店等、利用者が入居されてからの暮らしの中で、馴染みの関係を作っていきたいと考えておられた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 役割活動などで利用者同士が協働する場面はみられるが、仲の悪い利用者がおられたり、トラブルになる場面が時々ある。現在は利用者同士の関係を把握して、協働しながらもトラブルが少なくなるように支援しており、今後も利用者の変化に合わせてながら関係の支援を行うようにしたい。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 現在、サービス利用が終了された方で、関係を継続しているケースはない。今後サービス終了される方がおられた場合、終了前に本人、家族と話し合いを持つようにし、終了後も相談や情報提供など事業所として出来ることを伝えることで、安心した生活を送ることができるよう支援していきたい。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 個人記録に想いや言葉を書く欄を設け、日常会話の中から出来るだけ本人の想いを拾い、記入するようにしている。また、介護計画作成時にも本人の希望を確認するようにしているが、「何も無いよ」と言われることが多く、まだ本心を出しきれていないように思われる。信頼関係を深め、日常からもっと想いを出せれるよう取り組みたい。 (外部評価) センター方式を参考にして、事業所独自のアセスメント表を作成されている。アセスメント表は、1年毎に更新するようになっており、利用者、ご家族の「介護への希望」「したいこと、やりたいこと」等を個々に探って記録されている。希望を表出しにくい方についても、食べたい物をお聞きする時は、料理本を見ながら指を差してもらおう等、工夫されている。管理者は、年々利用者の希望を聞き取ることが難しくなってくると感じておられ、希望等についての情報を蓄積して、意思表出が難しくなった場合の支援の参考にしたいと考えておられた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 介護計画作成時にご家族と一緒に検討し、色々なお話を聴ける機会が得られている。今後は本人との会話の中からも必要な情報が得られるよう、個人記録を活用し記入できるように取り組んでいきたい。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメントシートに日常の過ごし方を記入するようにし、本人の出来ることを把握できるようにしている。日常の中で気付く本人の出来ることはケース記録や申し送りで伝達するようにし、職員間で把握できるように努めている。また必要に応じて、支援段階を6段階に分割した利用者個々のアセスメントを行い、状態把握に努めている。	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>介護計画を作成する際には、御家族にもホームに来て頂き、本人、家族、担当職員、計画作成担当者と相談しながら、本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>介護計画は、毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に計画を見直すようになっている。担当職員が計画の原案を作成して、それをもとに、ご本人やご家族と一緒に話し合いながら作成されている。事業所では、利用者個々の「生活力を落とさないように、何か一つ小さなことでも生活の中で役割を持っていただく支援」に力を入れておられ、掃除や洗濯物をたたむこと等、生活の中でご本人のできることや得意なことを計画に採り入れ支援されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>個々の記録には想いや言葉を記入する欄を設け、さらにケアプランの実践内容も記入するようにしており、結果や気づき、本人の想いを記入することで職員間で情報を共有できるようにしている。また介護計画を一月毎に評価する際にも個別の記録を見直しながら行うことで、新たな気づきが生まれるよう取り組んでいる。今後さらに職員個々が活用できるよう勉強会を定期的に行う予定である。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>本人のニーズで散髪に行ったり、個別の買い物に行ったり、また、家族の状況にあわせ、職員の通院の支援を行ったりしているが、利用者一人一人のニーズへは対応できていない。それぞれのニーズに対応できるよう、検討しながらサービスの幅がもてるよう取り組みたい。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>近隣の小学校や保育所と交流したり、近所の喫茶店の方など少しずつ地域の方々の協力が得られてきている。また近隣の社会福祉施設の配食サービスを行事の際に活用するなど、活用される地域資源が増えてきている。今後さらに利用者が希望する生活を送ることができるよう、地域にある資源を把握し、関係性を深めていけるよう働きかけを行っていきたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医はそれぞれの方の希望を聞き、本人が望む病院へ受診できるよう、御家族と相談しながら行っている。また、入居時に希望された主治医と別の主治医を希望された場合でも、御家族と相談しながら主治医が変われるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 協力医は、週に1度往診に来てくださり、24時間、緊急時の対応も可能である。ご利用者より「歯が悪い」との訴えがあり、歯科医院に往診していただいた際、治療に必要な歯が多かったことをきっかけに、年に1~2回は、利用者の歯科健診を行ってもらえるよう計画されていた。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 事業所には看護職員は配置されていないが、利用者によってはかかりつけの病院の看護師と関係をつくり、連絡をとったり、相談できるようになっている。今後全ての利用者のかかりつけの病院との関係を築き上げていけるよう取り組んでいきたい。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が病院に入院される場合には、入院時に本人に関する情報や支援方法に付いても医療機関に提供するようにし、入院中の本人のストレスや負担が軽減できるように取り組んでいる。また、主治医とも連携を図り、ホームで対応可能な段階を相談することで、早期の退院ができるよう支援している。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族会にてターミナルについての説明会を行い、家族に事業所として出来ることを理解していただくようにしている。ターミナルが予測される段階の利用者に対しては、御家族と主治医、管理者が話し合うようにし、その結果を基にして職員会で話し合い、チームとしてどう支えていくか検討している。	
			(外部評価) 事業所では入居時、ご本人とご家族に終末期の支援について事業所のできることを説明して、終末期のあり方についての希望を聞くようにされている。状態変化時には主治医もともに話し合う機会を作り、医師の助言等も踏まえて、ご本人ご家族が事業所での看取りを希望される場合は「終末期ケアに関する同意書」を取り、ご家族の協力も得ながら支援しているよう努めておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生に備えて、マニュアルを整備し、勉強会で学ぶ機会をつくっているが、全ての職員が完全に出来るまでには至っていない。また不安を感じている職員もいるため、毎年勉強会にて応急手当や初期対応が行えるよう取り組んでいる。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルを整備し、毎月避難訓練を実施している。訓練の反省点を踏まえながら、全職員が実施できるように取り組んでいるが、環境的に海に面しているため、津波時の避難対応など課題は多い。地域の防災訓練に参加したり、消防署とも協力しながら少しずつ向上できるよう取り組んでいきたい。 (外部評価) 毎月、火災を想定した避難訓練を行っておられ、マンネリ化しないように、日時を決めずにサイレンを鳴らしたり、出火場所を変える等、工夫しながら取り組みをすすめておられる。今年度は、布団を使って利用者を避難させる方法を繰り返し訓練されている。10月からスプリンクラーの設置工事が始まる予定となっていた。	職員は「毎月訓練を行っているが、勤務の都合上、実際に訓練を行っている職員や分担にも偏りがある」と話しておられた。事業所が海に面していることもあり、今後は、地震発生時や津波警報時の避難を行うことも計画されていた。いろいろな災害に備え、全利用者・職員が安全を保てるよう、想定される災害に重点を置いて訓練を重ねていかれてほしい。又、地域の中では「自主防災会」も立ち上がり、今後活動が始まるようであり、事業所として、地域の中でできることを示し、いざという時の相互で協力出来るような体制や関係を築いていかれてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員は、利用者の人格を尊重し、年長者としての接し方を心掛けているが、何気ない話し方や接し方が不十分な場合もみられる。また、声掛けも他の利用者を考慮した声の大きさなどについても課題がある。日常の中で、リーダーや管理者が伝えたり、勉強会を行っているが、今後も継続して行っていきたい。 (外部評価) 朝、遅くまで寝ていたい方には、ご本人が起きて来た時間に合わせて朝食の準備をされたり、夜遅くまで起きている方は、その習慣を大切にして、時には夜食にカップラーメンを食べることもあり、管理者は、利用者個々のこれまでの「生活スタイル」等を踏まえながら支援しておられる。又、利用者が個々の居室で「好きなことをする空間や時間を大切にしたい」とも話しておられた。	職員の利用者へのかかわり方について、配慮や工夫できることはないか話し合う機会にされてはどうだろうか。たとえば、食事介助について、ご本人のペースやご本人が食事を楽しむことに向けたかかわり方についても、配慮や工夫ができることはあるのではないだろうか。又、管理者が目指している居室空間の環境に向けて、布団や介護用品の収納や整理等もすすめてみてはどうだろうか。ご本人やご家族とも相談され、又、事業所でも配慮や工夫を重ねていかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員は日々の関わりの中で、利用者が選択できるよう複数の選択肢を提案するようにしているが、一部の場面であったりする等、日常生活全般において実行は出来ない。選択すること、決定することの大切さを職員全体で定期的に認識できるよう、繰り返し学ぶ機会を持つよう取り組みたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 朝入浴したい利用者や、朝食を遅く食べたい方へはその人のペースを大切に、希望にそって支援を行っているが、まだまだ職員の都合を優先する場面が多い。今後個別の職員研修や全体の勉強会で職員全体で考えながら取り組んでいきたい。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎朝着替えの際には、本人の意向を聞きながら決めるようにしている。また希望者は自分自身で衣服が買えるように支援を行っている。散髪にも出かけたり、外出が困難な方には訪問美容を利用し好みの髪型にできるように支援を行っている。今後さらにお化粧品や、行きつけの美容室に行けるように支援していきたい。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と買い物に行ったり、畑に野菜を採りに行ったりし、それぞれの方の得意な部分で野菜を切ったり、もやしの根きりをする等、食事づくりに関わるようにしている。調理が難しい方でも片付けや食器拭きに関わるようにしている。また、毎月希望のメニューを献立に取り入れるなど楽しく食事ができるように取り組んでいる。今後更に食べたいものを買に行くと食事を楽しめる工夫を行いたい。 (外部評価) 利用者一人ひとりのご希望のメニューを毎月1度は食べることができるよう献立を立てておられる。利用者は、ちらし寿司を希望される方が多いようである。事業所の畑で採れた野菜が食卓に上ることもあり、調査訪問時の昼食には、利用者が収穫した「なす」がお汁の具に入っていた。月に1度は、外食に出かける機会を作っておられ、「ステーキが食べたい」と言われる利用者もあり、「ファミリーレストラン」に出かけられた際には、ナイフとフォークをうまく使って食事をされたようだ。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個別に食事量や水分量を記録するようにし、1日を通じて必要な水分を確保できるようにしている。また、利用者個々の好みや希望で食事の内容や量を変えたりしている。今後一人一人の好みをもっと知り、おやつや飲物などももっと工夫できるよう取り組みたい。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後用品を準備し、声掛けを行うことで口腔ケアを実施している。また、就寝前には義歯を預かり洗浄剤につけるようにしている。今後一人一人の力量にあわせ、声掛けなく自らして頂いたりする取り組みを行いたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者はそれぞれトイレに行かれたり、自身で尿器にされるなどしている。失敗などがある方には、時間での声掛けをしつつ、適切な時間をアセスメントし、トイレ誘導ができるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 入院して紙オムツを使用するようになった方がおられたが、退院後、タイミングを見計らってトイレ誘導することにより、昼間は紙パンツで過ごされるようになった方がおられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の水分量を記録することで、十分な水分が摂取できているか確認し、少ない場合には好みのものや、適時摂って頂けるよう声掛けを行っている。また毎日午前中は乳製品や野菜ジュース等を摂取していただいたり、ラジオ体操をすることで体を動かしていただく等、予防に努めている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、午前、午後どちらでも入浴できるようにし、また、本人の希望で朝早く入浴したりもしている。今後はさらに、毎日希望を聞きながら、毎日入りたい人への対応や、利用者それぞれの入浴に対する想いを聞きながら、入浴が楽しめるよう取り組みたい。	
			(外部評価) 浴室に観葉植物を置き、緑を眺めながら入浴できるようになっているユニットもあった。朝食の後、すぐに入浴したい方のご希望に沿って支援されたり、お好みのシャンプーを使う方もいる。座位の難しい方には、浴室にマットを敷いて身体への負担を軽減し、シャワーを浴びることができるようにされていた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者には自室のドアを激しく開け閉めされる方も居られ、それが、他の利用者の安眠を妨げることもあるため、防音テープなどで対応を行っている。日中は利用者同士がソファで寄り添い、うとうとされる場面もみられ、リラックスした場所を提供できていると思う。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人一人の薬の内容について、個人ファイルに薬の説明書を綴じるようにしており、職員はいつでも見れるようにしている。また、薬の変更などがあった場合には、受診記録にも記入するようにしており、職員間で情報が共有できるように取り組んでいる。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お手玉作りや手芸など一人一人の趣味を把握し、その時間を大切にしている。また、それぞれの利用者の力量に合わせて、洗濯たたみや掃除、畑仕事などの役割を持っていただいている。現在利用者の状態変化に合わせて、役割活動のなかでの必要な支援について職員間で話し合いながら取り組みを行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の天気や本人の気分等に応じて海岸の散歩や花壇の手入れ、希望の夕食、近所の喫茶店に出かけている。しかし、なかなか外出を好まれない方もおられるので、利用者の希望や行きたい場所を聞き、それらにも対応できるようにすることで、外出につなげられるように取り組みたい。	
			(外部評価) お芝居がお好きな方がおられ「コスタ北条」に大衆演劇を観に行くこともある。又、菊間の「遍照院」に職員と一緒に参りに行かれる方や、ご希望に応じて洋服やおやつを買いにスーパーに行かれることもある。遠出を好まない方は、海岸やホームの花壇、畑周辺を散歩できるよう支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と相談してお金を所持されている利用者の方もおられるが、事業所で預かっている方が多い。本人の力量や希望に合わせ、小額でも持っていたり、買い物時や喫茶店の支払い時に自分で払えるような支援をできるよう取り組んでいきたい。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を掛けたいと希望がある方には職員が電話をかけ、了承をとり本人が話をするようにしている。年末には御家族宛の年賀状と一緒に作成して郵便局に出し、大変喜んで頂けた。今後は、本人が希望される方への電話が自ら出来るよう、相手の方との話し合いを続けながら実現できるよう取り組みたい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用空間には観葉植物や花などを置くようにし、少しでも心安らげる場所になるよう心掛けている。リビングからは海が見渡せるつくりとなっており、利用者もその景色を好まれておられる。しかし、全体的に生活感が乏しく、雰囲気も寂しいので、利用者の希望を聞きながら飾り付けや環境作りに取り組みたい。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2階の窓からは、その日の天候や行き交う船の様子や飛び跳ねる魚が見られたりもする。そのような景色が日々話題になるようだ。1階の窓を開けると、畑の様子が眺められ、調査訪問時には、窓を開けて利用者同士で畑の野菜や花を指差しながらお話をされていた。外では、ニワトリを飼っておられ、利用者が餌やりをされることもある。居間の壁には、事業所の敬老会時、100歳が近いお二人の利用者に事業所から感謝状を贈った際の写真が飾られていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>現在共有空間は大勢の方が利用される環境となっており、一人になったり、中の良い人とだけで過ごせる場所が無い。今後廊下や階段スペース、花壇の周りなどに、椅子やテーブルを置き、ゆったりとくつろげるスペースをつくるよう取り組みたい。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者それぞれの好みや生活習慣に合わせて必要なものや馴染みの物を持ってきていただき、自室で楽しんだりくつろげるよう取り組んでいる。また、本人の希望で畳の部屋にされている方も居られる。入り口には暖簾をつけ、自室内のプライバシーに配慮する取り組みも行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居前に、ご本人が作成したちぎり絵の作品を飾っておられたり、お位牌を持ち込んでおられる方やテーブルや椅子を置かれている方もあった。歩行が不安定な方は、衣類の入った衣装ケースをベットの近くに置いて、伝って歩行できるようにされていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の状態に合わせて手すりを増設したり、リビングで皆と一緒にお茶ができるようテーブルの高さを調節するなど取り組んでいる。今後も利用者一人一人の状態や、変化に合わせて、自分で出来ることがいつまでも続けていける環境作りを職員間で話し合いながら取り組んでいきたい。</p>	